

アメリカにおける歴史教科書研究報告を中心とする日本に関する扱いについての一考察

上 林 喜 久 子

はじめに

本報告は我国と関係の深いアメリカの初等、中等段階の歴史教科書の中で日本と日本人がどのような記述内容で扱われているかについて考察するものである。

そのため著者は、これまで、アメリカで歴史教科書中の日本についての記述分析を行った研究報告をとりあげ、それらの中で日本がどのように扱われているかについて調査した。これらの研究報告の選出は、著者が在米中、ミシガン大学の図書館の Educational Index, Doctoral Dissentatin Index, その他のリファレンスカードの総覧に基づいて行った。選出された10の研究報告は1923年から1970年までに行われた歴史教科書と日本の関係について言及されているものの総てである。

本報告では、これらの研究報告の紹介をその目的、方法、内容ならびに意義等に焦点をあてて検討し、歴史教科書中の他国に関する扱いについて一般知見を得ると共に、併せてアメリカの歴史教育の方向について示唆を得たい。

I 歴史教科書と国益的指向

以下、本報告ではアメリカで行われた教科書研究の中で、特に、歴史教科書中の日本に関する扱いについて言及されている報告を、その目的ならびに内容から判断して一応 1) 国益的指向, 2) 公民的態度育成指向,

3) 国際理解指向, ならびに 4) 民族問題指向とに分類して述べる。但し, これらの分類は便宜上であり互に重複する部分も含むことを予めお断りしておく。

1923年に Paul W. Terry と Judith Greguson は高校の社会科カリキュラムの中の日本, 中国, カナダ, オーストラリア 4ヶ国についての記述調査を行った¹⁾。この中で両著者は, 世界の政治大勢が太西洋沿岸諸国から太平洋沿岸諸国に移ったとする歴史認識に基いて, アメリカ西海岸の大都市の高校生が, 心理的かつ経済的にアメリカと緊密関係を保ち始めた上述の4ヶ国の政治・経済問題を知的に判断・処理し得る材料を教科書が提供しているかと問うている。特に日本については, 強大国となったこと, 貿易と領土をめぐるアメリカとの対決が予想されることが注目されている。

両著者は近代西洋史3冊, 商業地理1冊ならびにアメリカ史と公民3冊, 合計7冊の教科書の中で上述の4ヶ国に関する記述量と記述内容の分類を行った。報告によれば7冊の教科書中, 日本, 中国, カナダならびにオーストラリア4ヶ国の記述量は合計3,000ライン, 即ち全記述量の1.7%のみを占めるにすぎず(日本, 中国 0.57, カナダ 0.45, オーストラリア 0.18%), その大半は近代西洋史の教科書中に存在すること, ならびにその記述は粗略でヨーロッパ的立場から行われている。一方, アメリカ史は必修課目にもかかわらず, 4ヶ国についての記述量は合計369ライン, 即ち全体の0.52%である。この中で, 日本はフットノートにのみ記されペリーの来航によって始まった日米関係についての記述は行われていない。7冊の教科書中, 4ヶ国に関する記述内容を項目別に分類すると, 記述量の多い順から, 各国の

- 1) 成立史と文化, 領土拡張, 戦争
- 2) 資源, 商工業の発達, 地理
- 3) アメリカ以外の特定国との外交, 貿易関係
- 4) 国内の政治史, 統治形態

- 5) 4ヶ国とアメリカの外交関係ならびにアメリカと4ヶ国に対する外交方針
- 6) 人種, 人口
- 7) 著名人物

となっている。これらの中で 1)の日本, 中国, カナダならびにオーストラリアの歴史, 文化, 領土と戦争の項目が歴史教科書の記述の大部分をしめている。(2192ライン中1331ライン) このことは, 歴史教科書が地理等の教科書とは異なる役割を持つことを示唆している。

さらに, 日本については, 4)の国内の政治形態の項目では4ヶ国合計270ライン中14ライン, 5)のアメリカとの外交関係ならびに7)の著名人物の項目は0, 6)の人種, 人口では日本, カナダ, オーストラリア合計101ラインのうち日本については18ラインの記述量が与えられている。特に, これら4項目に関する情報が不足していることについて Terry と Greguson は次のように批判・指摘している。(これら教科書の記述は)

「アメリカ合衆国の人民にとって, 日本帝国の運命が国家的, 帝国主義的専制主義者によって導かれているのか, あるいは, 平和愛好的民主主義者の代表によって統治されるのかを知ることがいかに重要なことであるかについてなんの示唆も行っていない。〔これら教科書中には〕ペリーの訪日, あるいはアメリカの門戸解放対策についてまったく無視している。」

Terry と Greguson の報告では, 分析の対象が日本を含めた複数国である。このことは, アメリカの教科書中に占める日本の相対的位置を判断する上で有効であろう。さらに, 記述項目に何を採用すべきかの基準として両著者はアメリカの歴史のコースを判断し得るに有効な相手国に関する情報の採択を考えていることは明らかである。

Terry はこの報告の後に日米関係にのみ焦点を絞ってアメリカ西海岸の公立高校生100名が日米関係について抱いている認識の調査を行った²⁾。報告によれば生徒は 1), 日系移民はアメリカによい結果よりも悪い結果をもたらしたと確信していること, また 2), 日本と日本人についてロマン

チックな見方を抱いている反面、日本はアメリカにとって決定的に厄介な存在であると考えている。Terry は、このような認識の情報源は圧倒的に新聞、会話、個人的見聞、雑誌の順で、学校の教科書は最下位に位置していることをつきとめた。このことについて Terry は上述の彼と Greguson の研究結果と併せて、日米関係に関する正確かつ信頼すべき情報が学校によって提供されるべきであると指摘すると共に、その根拠を次のような立場で述べている。

◇……（日米関係に関する話題）は全国津々浦々の興味をひき……西海岸では日本人に関するすべては論争の種となっている。……教師はこの問題を学校でとりあげることをさけている……それゆえにこそ、この問題について学校は正しい思考方法と、知的正直さで立ち向わねばならない……◇

Terry と Greguson の研究目的を歴史教育のカリキュラム作成と結んで明確にした報告が1939年 Alfred M. Church によって行われた³⁾。Church は歴史教科書が生徒にアメリカの対外政策を伝達し、さらに理解させる積極的役割を持つことに注目し、中等学校の社会科の教科書中の日本、中国ならびにアジア諸国の記述分析を行った。

分析に際して Church は三つの設問を立てた。1)アメリカ人は日本、中国ならびに太平洋地域におけるアメリカの国益について何を知るべきか。2)アメリカの中等学校は、日本、中国、その他の太平洋沿岸諸国について何を教えているか、3)第1と第2の調査結果にもとずいて将来これらの国々に関するカリキュラムはどのように作成されるべきか。

第1については Church は既刊の書物、雑誌の中で極東について書かれている記事を総覧し、その結果から教科書が採用すべき重要トピックスを提案している。第2の間については1928年から1938年に出版された85冊の社会科教科書（地理、アメリカ史、公民、世界史）が分析された。この中で高校用アメリカ史10冊の中の日本に関する記述量と記述内容が報告されている。その中で次の10項目が記述頻度の高い順にあげられる。1) 日系移

民の排斥運動, 2) 海軍々縮会議, 3) 満州国, 4) 第一次世界大戦, 5) ペリーの来航, 6) T. ルーズベルト大統領と紳士協定, 7) T. ルーズベルト大統領と日露戦争, 8) 日本の抬頭と侵略性, ならびに, 9), 日米貿易である。第3のカリキュラムについて考察するに際して Church は生徒に日本についての試験を課し, その解答の分析と, 上述の1)ならびに2)の結果に基づいて, 将来の日本に関する社会科のカリキュラム作成のあり方を提唱した。それによればカリキュラムは機能的観点(functional approach)から構成されるべきであり次の4観点があげられる。1) どのようにして日本が強国となったか, 2) ワシントン海軍々縮会議における日本の重要性はどこにあったのか, 3) 現在の世界状況における日本の位置はどんなものであるか, さらに 4) どのような原因, 要素が1905年以前に存在していた親密な日米関係を破綻せしめたのかである。

Church の報告がなされた1939年は日本が満州事変を経て日中戦争さらに太平洋戦争へ突入しつつあり日米関係の緊張が増大した時点である。このことからアメリカが日本を知ることは国策上重要なことであったと考えられる。Church の報告はそのような国家的要請に応じて, 教科書が日本に関するどのような内容を, どのような角度から記述すべきかを提唱したものであるとして評価されよう。

太平洋戦争以前に行われた上述の2報告に続いて本稿の筆者は戦後の日米関係の変化がアメリカ史の教科書中の日本に関する扱いにどのような変化をもたらしたかを調査する目的でアメリカの高校用アメリカ史64冊(1950年~1972年出版)の日本に関する記述分析を行った⁴⁾。まず64冊の教科書中の日本に関する記述項目の全部がとり出されて年代順に11の項目とそれらに付随する副項目に分類された。11の主項目はペリーの来航と日本の開国, 日清戦争, 日露戦争, 日系移民, 第一次世界大戦, 海軍々縮会議, 満州事変, 日中戦争, 太平洋戦争, アメリカの日本占領そして現代の日米関係である。これら11の項目についての記述が日米関係の3つの時期, 即ち 1) 1951年~1956年(占領政策の変化からサンフランシスコ平和条約

をへて日本の独立まで), 2) 1957年～1964 (独立から第一次日米安全保障条約改正の前後の時期), そして 3) 1965年～1972年 (日本の経済復興と第二次日米安全保障条約締結の時期), によって変化しているかが考察された。

まず11項目の記述量について測定した結果各項目の記述量は1951年から年毎に拡大される傾向にあることが判明した。中でも満州事変から太平洋戦争に関する項目の記述量の増加は著しい。記述内容の行われ方では、多くの教科書が日本の中国大陸における軍事行動の非難、ならびに日本の国際協調精神の欠如が強調してとりあげている。しかし、このような傾向の中でも日米関係が第1期 (1951年～1956年) から第3期 (1965年～1972年) へといわゆる緊密と安定度を増すにつれて、日本国内における政治、経済ならびに社会諸制度の特色や問題点について詳細な記述が加味されてくる傾向にある。

以上の研究報告中において歴史教科書はアメリカの歴史の現状と将来を判断する時点で、日本をどのように理解するかと言う観点から、日本に関する記述内容の選択とあつかいが行われていることが伺われる。このことは、歴史教科書の中の他国に関する扱いを判断する一例を示していると言えよう。

II 歴史教科書と公民的態度育成指向

1938年 Bessi L. Pierce は *Civic Attitude in American School Textbooks* と題する研究報告を発表した⁵⁾。題名が示すように Pierce の目的は教科書中の自国と他国の関係についての記述を通してアメリカの青少年がどのような公民的態度を育成させられるかを見究めることにあった。分析の対象となった教科書は約400冊の初、中等教育の歴史、公民、社会、経済、地理、国語、外国語ならびに音楽である。これらの教科書の中で、戦争と平和、少数民族、あるいはロシアを始めとする諸外国の扱い等についての記述が調査された。一般的結論として Pierce は、これらの教科書

の記述は強烈なアメリカ讃歌の国家精神に満ちているが、一方、これらを通読した青少年は、多くの場合、アメリカの栄光とは対照的に他国への侮蔑を高める態度を発展させるであろうと述べている。

日本に関しては4冊のアメリカ史の記述に基いて短かく報告されている。これらの中で次の4つの記述項目が分類されている。1) ペリーの来航、2) 日本の近代化、3) 日露戦争とアメリカの役割ならびに 4) 日系移民である。これらの記述の行われ方について Pierce は、日本の開国とそれに続く近代化、そして日露戦争にアメリカが恩恵者としての役割を果たしたという立場が採られていると報告している。さらに、日系移民については、アメリカの対日系移民政策が強く弁護されているとも指摘している。このような指摘を通して Pierce が歴史教科書の記述を通してどのような公民的態度の育成を狙っているかの一端が伺えよう。ごく一般化するならばそれは、自国と他国についての客観的かつバランスのとれた知識を備えた青少年であろう。

Pierce の研究テーマと同様な趣旨で、アジアについての扱いを中心にした研究が第二次大戦直後に行われた。1946年 American Council on Education は社会科教科書のアジア諸国の扱い方について大規模な調査を行った⁶⁾。Treatment of Asia in American Textbooks と題する研究報告の目的は教科書中の日本、中国、インドならびに東南アジア諸国に関する記述内容を分析し、さらに評価することであった。

これまでの報告では研究者個人の観察に基いて記述内容の評価が行われていたが、Council の報告では社会科の教師ならびにアジア問題の専門家が協同して評価を行っていることが注目される。記述内容の分析・評価に際して彼等は次の三つの質問事項を設定した。1) これら教科書は、まず、アジア諸国の何について書いているのか、2) アジア諸国を記述する為に教科書が用いている素材はどの程度適切なものか否か、そして3) 教科書中のアジア諸国についての記述を改良していくにはどうすればよいかである。

まず、アジア諸国に関する記述内容が次の10項目に分類された。1) ヨーロッパ文明の中のアジア的文化の伝統と遺産、2) 東洋への探索と発見、3) 初期のアメリカとアジアの接触、4) アメリカの初期アジア外交、5) 日本の開国、6) アメリカによる太平洋諸島の獲得、7) ドル外交と門戸解放政策、8) アメリカ国内のアジア人、9) 1910年以降の米中関係ならびに 10) 1905年以降の日米関係である。

日本に関しては、小、中、高校生用のアメリカ史22冊の中で上述の5)、8)ならびに10)の3項目の記述についての報告が行われている。以下それらについて要約する。

第一に、この報告で注目されることは、日本文化についての記述の有無がはじめて言及されていることである。報告によれば22冊の教科書中平均約1/2 ページが、アメリカが日本の開国に果たした役割を評価しているが、この中で1冊のみがペリー来航当時の幕府の状態ならびに、開港という歴史的イベントがアメリカとヨーロッパ世界に与えた影響について記述している。このことについて Council は平均的アメリカ史の教科書から日本文化について何か知ろうとすることは難しく、また、どの教科書の著者もアメリカと非常に異なった日本社会についての知識を青少年に知らしめる努力を怠っていると述べるとともに、さらに、ヨーロッパ中心の思想や文化に浸されているアメリカの青少年が、それらをのりこえて日本と日本人を理解する手助けを教科書が果していないと忠告している。

第二に、アメリカ社会の中のアジア人については日系移民は中国系移民と並列して扱われており焦点は後者におかれている。小学校の教科書中平均1/2 ページ(1冊平均411ページ)、ならびに中・高校の教科書中1~2 ページ(1冊平均中学校610、高校780ページ)が両国の移民の記述に割り当てられている。日系移民の扱い方について Council は次の二つの事項を指摘している。これらの教科書は、日系移民が何故アメリカに来て何を行ったかについて不十分かつ不正確な記述を行っている。2) アメリカ社会に潜在するアジア系移民に対する偏見について触れていない。このように指摘し

識を Council は歴史教科書がアメリカの青少年達にアジア人についての認めた後、助成するため積極的役割を果すことについて次のようにのべている。

“……少数民族の扱いは民主々義国家にとって決定的に重要な問題である。……アジア系移民についてのより多くの知識を得ることは、アメリカの若い市民の心に寛容と理解の態度を発展させる助けとなる”。

第3の1905年以降の日米関係についての記述は高校教科書中平均6ページ（1冊平均785ページ）である。（米中関係についての記述量は平均2ページ）。小・中・高校の教科書は日露戦争の和平交渉における T. ルーズベルト大統領の貢献に記述の中心を置いている。この他、第一次世界大戦ならびにワシントン海軍々縮会議に若干言及している。Council の報告によれば、これらの事項についての記述は日米関係の歴史について新しい解釈を示していないこと、さらに、過去1/3世紀の日米の利害の衝突、あるいは政治と経済上における両国の政策上の相異について具体的な説明を行っていないとされている。このことと関連して Council は日本とアメリカが太平洋戦争で闘った本当の原因はどこにあったのかという青少年の疑問に歴史教科書が満足な解答を与え得るのかと問うており、ここでも Pierce と同様に、バランスのとれた情報に基いて国家間の争いを判断しえる青少年の育成と歴史教科書の役割を示している。そして、このことがアメリカの青少年にとって最終的には自国を理解することになるとの立場から歴史教科書の記述内容との関連において育成されるべき公民的態度の方向を示唆している。

Ⅲ 歴史教科書と国際理解指向

歴史教科書の記述が国際理解に果す役割を重視して古くから国際機関による教科書改訂運動が推進されてきていることは周知である。次に述べる高木酉の報告はユネスコが国際間の教科書改訂運動に採用した基準を用いてアメリカ史の中の日本ならびに日本人についての扱いを評価したものである。

1953年高木は高校生用アメリカ史85冊（1895年～1950年出版）の中で日本と日本人についての記述内容の分析評価を行った。その中で高木は日米関係の歴史をペリーの来港による日本の開国からアメリカの日本占領までの10項目に分類し、これらの項目の記述内容がユネスコの提供する三つの基準、即ち 1) 国際信義 2) 国際理解ならびに 3) 国際平和に沿って適正かつ正確に行われているかを調査した。

記述内容を分析するに際して6つの判断の標準が採用された。それらは 1) 記述内容の正確性、2) 総合的かつ適正な情報の有無、3) 均衡のとれた記述内容 4) 記述内容の客観的かつ公平な扱い方、さらに 5) 代表的かつ正確な写真・イラストレーションの提示の有無である。

調査結果によれば前述の10項目についての日本人ならびに日本人に関する記述内容は1895年から1950年の間に、前述のユネスコによる3つの基準に合致もる方向で年々改善されていると報告されている。しかし、日本の国際協調精神の欠如ならびに、日本の他国への侵略的行動と態度を非難した記述が散見されるとも述べられている。一方、記述項目の量的測定の結果は次表のように整理され、日本に関する記述量が戦争に関連した項目を中心に増加していることを示している。

表 1. 85冊中の項目に対する記述頻度

	1895 1913	1914 ～ 1930	1931 ～ 1944	1945 ～ 1950
日本の開国	61%	55%	75%	85%
極東の抬頭国	26	62	86	95
日露戦争とその後	31	74	92	100
日本と第一次世界大戦	8	55	90	100
日本と国際会議		85	96	95
太平洋を越えた日本移民		56	100	100
満州事変		56	75	95
中国における布告なき戦争			20	95
日本と第二次世界大戦			3	100
日本の占領				91

高木の報告がアメリカ史の中の日本に関する記述内容に調査対象を限定し、かつ教科書の出版年代が55年間の長期にわたっていることを考えると、アメリカ史の中の日本像がある程度まで一般化されて判断出来よう。

IV 歴史教科書と民族問題指向

これまでの報告中に日系移民の扱いはしばしば指摘されてきたが、この問題が特に注目されるようになったことについては次の理由が考えられる。

1960年の始めからアメリカ国内では黒人の市民権運動を契機にアメリカの歴史の中で黒人を始めとする少数民族の果たした役割を再認識する気運が高まった。そして、特に歴史教科書の中で黒人、ユダヤ人、メキシコ系アメリカ人あるいは日系移民を始めとするアジア系アメリカ人がどのように扱われているかについての研究報告が多く行われた。これらの報告に共通して認められる立場は複数民族国家としてのアメリカ社会の健全な存続と発展のためにはこれら少数民族についての理解が必須であるとの認識である。

この立場は1949年 American Council on Education によって行われた研究によく示されている。⁸⁾ この報告は760冊のアメリカ史、世界史、地理、公民、現代問題、一般社会、生物ならびに国語の教科書が 1) アメリカ社会における様々な民族あるいは民族関係について、直接あるいは間接に何を、どのような内容で提供しているのか、2) 民族間の諸問題について適切な記述を行っているかを調査し、さらに1)と2)の結果から将来教科書の出版者、作者ならびに使用者に対してどのような改革案を提供し得るかを考察した。

記述分析に際しては歴史、文学、心理学ならびに社会学を代表する専門家による委員会が構成され、次の4つの視点に基いて調査が行われた。1) 個人の尊厳と価値についての扱い方、2) 民主社会における民族グループの扱い方、3) アメリカの人口構成中の主たる民族グループの扱い方なら

びに 4) 民族グループ間の交流についての扱い方である。

報告によれば、日系移民についての扱いは不満足な点が多く、彼等が何者で、何故アメリカに来て、何をアメリカで為しているかについての記述は認められず、代りに、アメリカの日系移民に対する種々の規制法案とそれらの日米関係へ及ぼした影響に焦点が当てられている。

このような Council の研究報告は1961年 Lloy Marcus によって一部追跡調査されている⁹⁾。Marcus は、中・高校生用の社会科の教科書48冊(アメリカ史16冊、世界史16冊、社会・経済16冊)の中の黒人、ユダヤ人、ならびにその他のアメリカ国内の移民に関する記述内容を分析した。分析に際しては、7つの基準が採られた。即ち包含性、確実性、均衡性、総合性、具体性、統一性ならびに現実性である。Marcus によれば2冊の教科書が太平洋戦争中に行われた日系移民の強制収容について積極的かつ啓蒙的立場で記述を行い特に、イタリア戦線で闘った日系部隊の活躍を指摘している。そして Marcus はこのような記述は日系移民が長期にわたって拒否されていたアメリカ市民としての権利と特典を得る一助となるであろうと述べている。

同様の報告は1970年に Michail B. Kane によっても為されている¹⁰⁾。Kane は約45冊の社会科(アメリカ史、世界史、ならびに政治・社会)の教科書中の少数民族の扱いについての変化を1960年に行われた Marcus の研究を追跡する形で行った。

Kane の調査によれば日系移民についての記述は1960年以降ひき続いて肯定的かつ啓蒙的に行われているが、一般的結論としては、アジア系移民のアメリカ社会への貢献度、彼等の国民性ならびに現在のアメリカ社会における彼等の位置について教科書はさらに記述を加味するべきであると報告されている。

これら一連の日系移民に関する報告はそれらが追跡調査の形で行われている為、アメリカ社会における日系移民の位置ならびに彼等に対するアメリカ社会の認識の変化が伺える。

おわりに

アメリカの教科書研究報告中の日本に関する記述内容を例にして歴史教科書の中の外国に関する扱い方の一例を考察した。

アメリカにおけるこの種の研究の特色ならびに傾向として次の諸点があげられよう。第1に、歴史教科書の記述内容は固定されたものではなく、教科書の出版された時代のアメリカの国益によって変化を示す。このことは日本に関する記述項目の頻度の増減あるいは種類の変化によっても伺われよう。このことは、歴史教科書がアメリカの歴史の現状と将来を理解するための材料を提供する役割を常に荷わされていることを示唆されていよう。にもかかわらず第2に、アメリカ史の中の日本像がある程度定型化されていることから明らかなように、歴史教科書の記述はアメリカの歴史の正当性を第一義におき、他国（日本）についてのそれを第二義において行われている。このことは、当然ながら、歴史教科書と国際理解の関係において他国（日本）の存在をどうとらえるかと言う問題を提起しよう。

このことは第3に研究方法の問題にも関連してこよう。即ち、ある国の歴史教科書の他国についての記述内容を質的ならびに量的に判断する基準の問題がある。本稿で紹介した研究報告でも採用された基準は各報告によって様々にことなっており、当然のことながら歴史教科書の役割機能も各々にことなっており考えられる。

以上のような考察に基づいて歴史教科書、ひいては歴史教育の方向を見究めるには、各国の教科書の記述比較が今後のぞまれよう¹¹⁾。

以 上

注

- 1) Paul W. Terry and Judith Greguson, "Blind Spots in the High School Curriculum," *Educational Review*, June, 1923, pp.25—31.
- 2) Paul W. Terry, "Is the High School Developing a Citizenship Intelligently Informed of Japanese-American Relations?," *School and*

- Society*, vol. 8, No. 460 (October 1923), pp. 475—480.
- 3) Alfred M. Church, "The Study of China and Japan in American Secondary Schools," Unpublished Ph. D dissertation, Harvard University, 1939.
 - 4) Kikuk Kambayashi, "The Expansion of Treatments of Japan in High School Textbooks in American History, 1951—1972," University of Michigan, Comparative Education Dissertation Series No. 26, 1975.
 - 5) Bessie L. Pierce, *Civic Attitudes in American School Textbooks*, Chicago, The University of Chicago Press, 1938.
 - 6) American Council on Education, Committee on Asiatic Studies, *Treatment of Asia in American Textbooks*, New York, American Council on Education, 1946.
 - 7) Tori Takaki, "The Treatment of Japan and People of Japanese Descent in Senior High School History Textbooks," Unpublished Ph. D. dissertation, The University of Michigan, 1953.
 - 8) American Council on Education, Committee on the Study of Teaching Materials in Intergroup Relations, *Intergroup Relations in Teaching Materials, A Survey and Appraisal: Reports*, American Council on Education 1949.
 - 9) Lloyd Marcus, *The Treatment of Minorities in Secondary School Textbooks*, New York, B'nai B'rith Anti Defomation League, 1961.
 - 10) Michael B. Kane, *Minorities in Textbooks—A Study of Their Treatment in Social Studies*, Chicago, Quadrangle Books, 1970.
 - 11) Ben C. Duke, "The Pacific War in Japanese American High Schools: A Comparative Analysis of Textbook Teachings," *Comparative. Education*, Vol. 5, No. 1, (February 1969), pp. 73—82. ならびに本稿の筆者による“日米の高校用歴史教科書における記述の比較” 国際基督教大学教育研究, No. 20, 1977 等を参照されたい。

Presentation of Japan in American History Textbooks

Kikuko Kambayashi

The study aims to examine treatments of foreign countries in the American history textbooks. How do American textbooks describe the foreign countries with whom America have had the contact in the course of her history? The treatments of Japan and Japanese in American history textbooks are considered as the case in point.

For this purpose ten textbooks studies which have been produced in America, and to which the treatments of Japan has been referred are reported in terms of their aims, methods, and contents.

In conclusion some characteristics of American history textbooks in their presentation of Japan are considered. They are: 1) History textbooks are, in general, written in line with national interests which prevailed in the time when the textbook was compiled. 2) The treatments of Japan, accordingly, change from time to time. 3) Despite the fact that the Japanese image in American history textbooks is stereotyped to a certain degree, throughout the time, there is a trend toward giving comprehensive presentations about Japan.

本報告はアメリカの歴史教科書の記述と国際理解の関係について考察した。アメリカの歴史教科書が自国の歴史に深く関与した他国についてどのような記述を行っているかアメリカ史の中の日本と日本人に関する扱いを一例として考察した。。

この為に、これまでアメリカで行われた教科書研究の中で特に日本について言及されている報告を10件とりあげ、それらの報告の目的、研究方法ならびに報告の内容の紹介を行った。

結論として、1) アメリカ史の中の日本に関する扱いはアメリカの国益を反映しており、2) 従って日本についての扱いは各時代によって異なること、さらに 3) アメリカ史の中の日本像はある程度ステレオタイプ化されて記述されているが、しかし、時代が下るにつれて日本に対する総合的記述が増加していることが挙げられる。